

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

1
VERSION



Pさんの
おちんぽが
お人様には
お見せしたくない!!



まどろい

ある日

私たちは
見てしまい
ました

大好きな
プロデューサーさんが
私たちをおかずに

オナニーしている
ところを

それを見た
私たちは

プロデューサー
さんが私たちで…

シヨックを
受けるわけでも

軽蔑する
わけでもなく

ただただ
その光景を
じっと見つめて
いました



私たち自身
だったら—

そんなことを
想像しながら
ずっと…



もしも

あれがオナホ
じゃなくて



プロデューサー
さんに犯されたい
という欲求を
いだくように
なりました



その日から
あの光景を
思い出すたびに

私たちの
おまんこは
うずくようになり

その気持ちは
プロデューサー
さんを前にする
たびに

風船のように
膨らんでいって



覚えてたの
幼稚な自慰では

全然
おたおた...

日に日に我慢が
できなくなつて
いきました





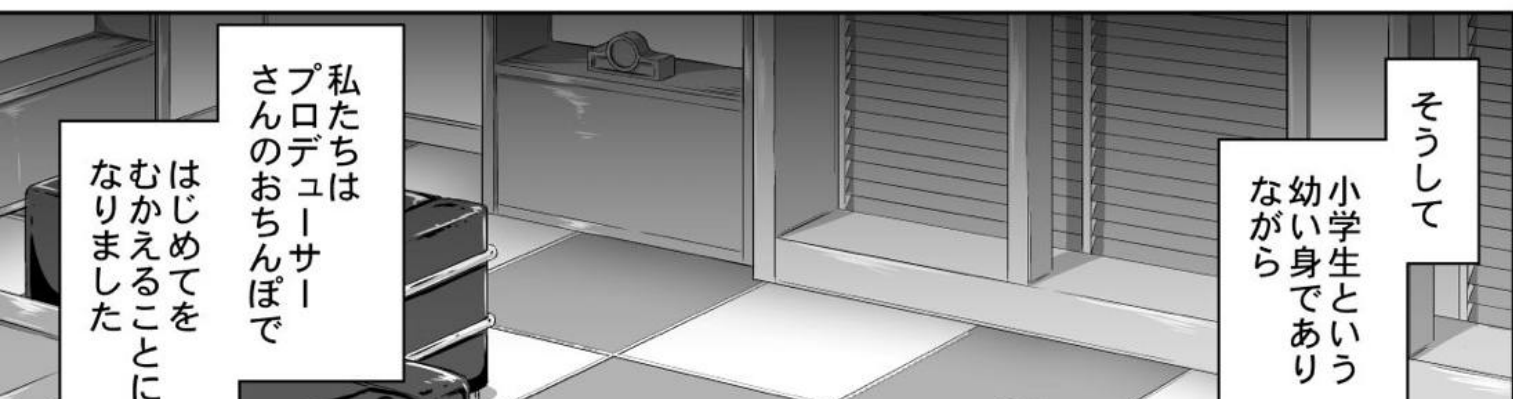
そして…
自分たちでは
処理できなく
なった私たちは

プロデューサー
さんをお願いする
ことにしたんです



私たちが
犯してください

—と



そして

小学生という
幼い身であり
ながら

私たちは
プロデューサー
さんのおちんぽで

はじめてを
むかえること
になりました





小さい膣に
大きなおちんぽを
お腹いっぱい
挿入され

未成熟な子宮に
受け止めきれない
ほどのザーメンを
注がれる



それは自分たちの
女の子すべてを
蹂躪されている
ような凄まじい感覚

でも…

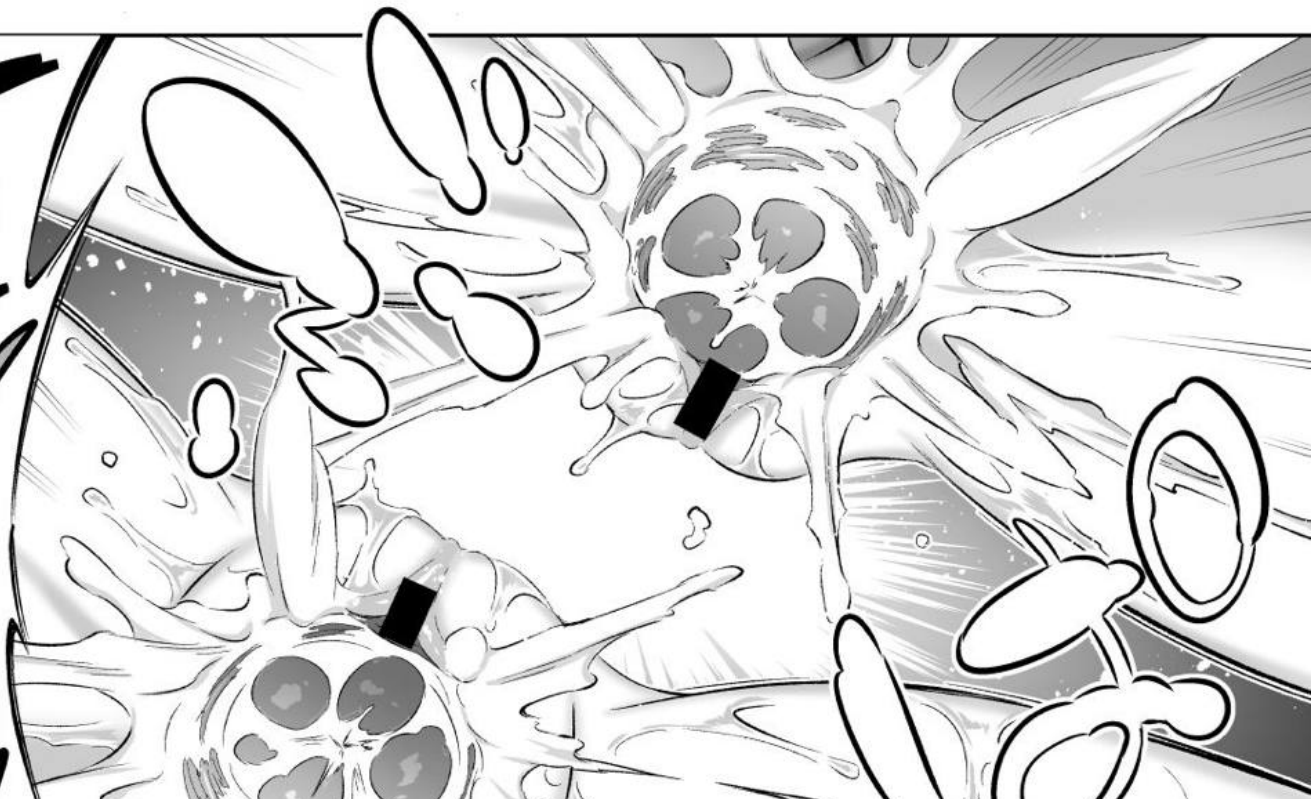
私たちは

あーっ

あーっ

その感覚に
言いようのない
快感を感じて
いました

あーっ





そして

その快感を
知ってしまった
私たちは

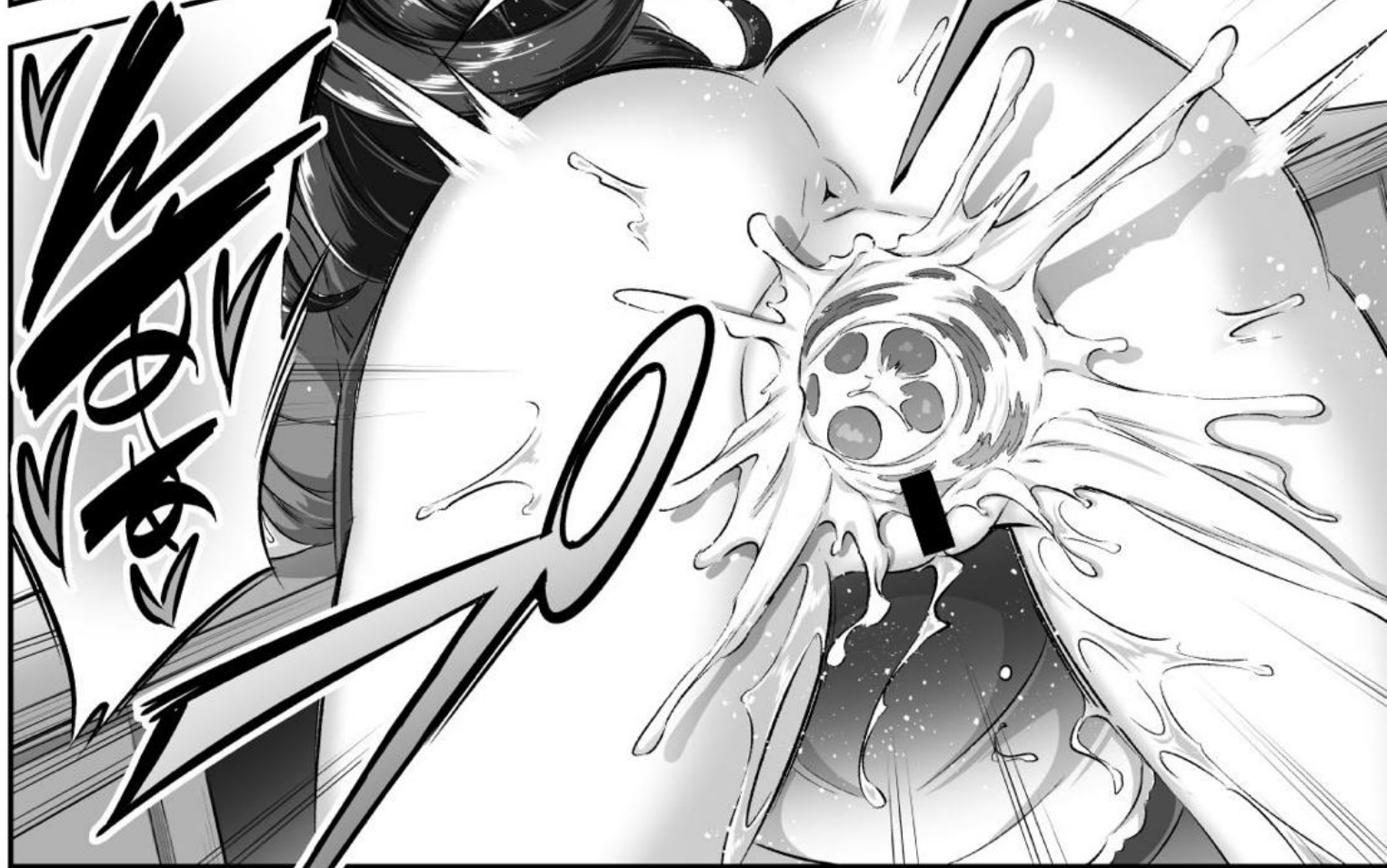


「もっと
犯されたい」

そう思って
しまったんです

その日から
事務所は

セックスを行う
場へと変わり



私たちは
犯されることに
夢中になって
いきました



少しでも時間を
見つけては
プロデューサー
さんを感じるために



必死に
おちんぽを
啜こみ

一度中に出されたら
二度と取れないと
思えるほど粘ついた
ザーメンを



小さな体の内側に
何度も何度も
出してもらいました



そんな非日常的な
日々を重ねて
いくうちに

幼い体は
もっと強い
快感を求めだし

私たちは
いつのまにか

自分たちの性癖を
模索するように
なっていました



Pさんの
便女♡



とても変態的な
ものでした



それは普通から
かけ離れた



あーっ♡

あーっ♡
おんん♡
ももも♡

あーっ♡
おんん♡
ももも♡

あーっ♡
おんん♡
ももも♡

羞恥的な快感を
得るために

自分から
おしっこを我慢して
犯してもらい



プロデュー
サーの前なのに

おまた丸出して
漏らしちゃってる

あーっ♡
おんん♡
ももも♡

あーっ♡

大きく開いた股から
失禁する恥ずかしい
姿を見てもらったり

ハハハハハ

ギシ

じゅぽ

じゅぽ

ちんぽがは

ちんぽがは

動けないように
縛られて

それ以上
強くしたら

どんなに
辱められても
どんなに
弄ばれても

抵抗できず
されるがままに
犯されてしまう



そんな
自分の体を好き勝手
扱われる状態に

被虐的な興奮を
覚えたり

自分を性の対象
としてだけでなく

ピクピク

はは

はは

今の女は
便女なの

用を足すための
物と称して

用を足すための
物と称して

あははは

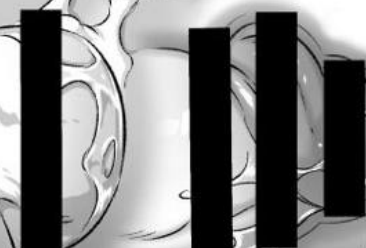
本来外に出すべき
おしっこを

同じく出すために
ある肛門に排尿して
もらい

おしっこ
浣腸されてる

お尻の穴
おトイレとして
使われちゃってる

その背徳的な
行為に悦びを
感じたり……



ゴゴ



そんなふう

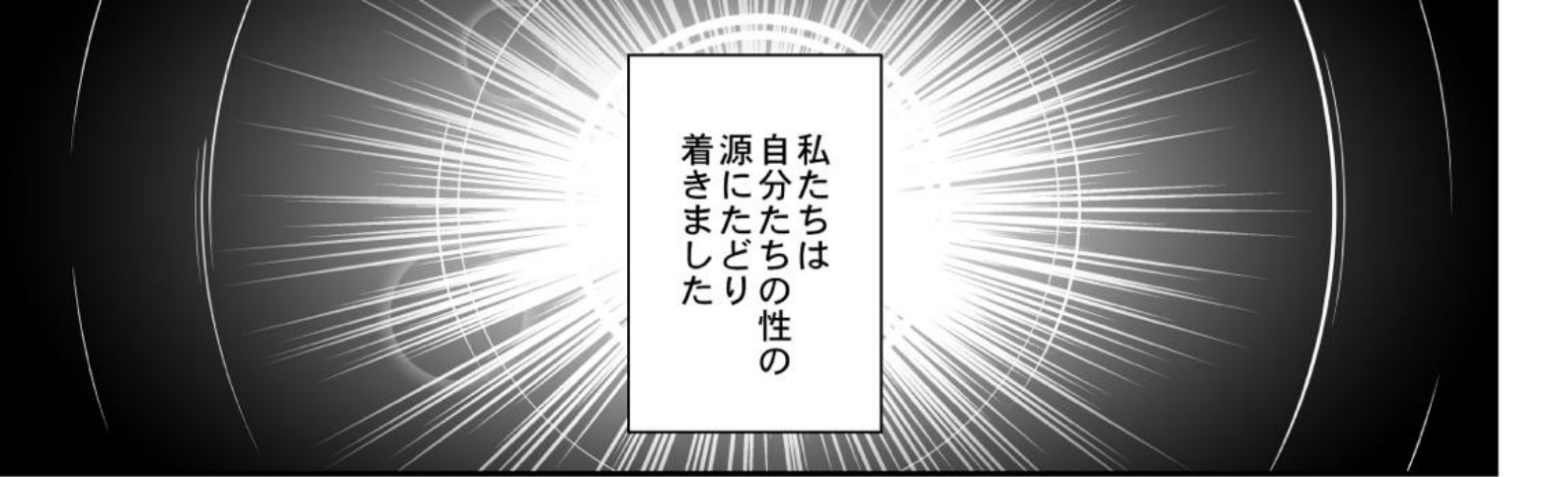
自分たちの性癖を
探るように
育てるように




思いつく
あらゆる方法で
犯してもらい



性と体を
刺激し続けて…




私たちは
自分たちの性の
源にたどり
着きました



自分たちの性の
本質を知った
私たちは

連休を利用して
プロデューサー
さんのお家に
お泊りすることに
しました



もちろん
表向きは
合宿として

実際には――



プロデューサー
さんのお家に

監禁して
もらったために

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ



一週間という
短い間に
数えきれないほど
犯してもらって得た

私たちの
「されたかったこと」

それは

すげえ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

大好きな
プロデュ
サーさん
のー

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

性的な
所有物として
所有されて

凌辱の
限りをもって

女の子という
小さく幼い
性のすべてを

♡♡♡♡♡



搾取しつくして
もらいます。



ほっほっ

ほっほっ

あははは



それが
私たちの心と体

そして本能が
望んでいた
ことでした



だから
私たちは

プロデューサー
さんの匂いと物で
溢れたこの空間で

プロデューサーさん
だけのおちんぽ奴隷に
なることにしたんです



人権も自由も
持ち主に委ねられ

はあ

ドキ

ドキ

くちゅこっ♡



性欲を満たす
ためだけに

ぐっ

ぐっ

くちゅこっ♡

くちゅこっ♡

体中を好き
放題使われる

あのときの
オナホのような

おちんぼを
満足させるための
性的な「物」のような
存在に……

だけど…

他の人たちには
到底理解できない
ような

どう見ても
異常な性癖



大きなおちんぽで
小さな膣を
ほじられるのが
気持ちよくて

全身でおちんぽを
しごくように
扱われるのが

どうしようもなく
大好きな

変態だから





…だから

こんな
メチャクチャに
犯されるのを
望んじゃうのは

仕方が
ないんです



それに...



自分たちの
性癖がどんなに
異常なもので
あったとしても





体中の穴という
穴からイキ汁を
噴き出して

身をよじらず
にはいられない
この快感は



普通の人は
感じるもの
ではないもの
だから



他の人がどう
思おうと

そんな快感を
こんなに与えて
もらえる私たちは

きつと





女の子です

世界一幸せな



ちぢぢ

そうして
三日三晩に
およんだ

夢のような
監禁生活は
終わりを
告げました

ただ…

私たちは
この体験を経て
あることを
決意しました

今回のような

一時的なもの
じゃなく

本物の
おちんぼ奴隷
として

養子縁組届

養子縁組届

縁組届

プロデューサー
さんに飼って
もらおう——と



まぞろり1
Pさんのおちんぼ奴隷になりたい

- 発効日 : 2019/08/12
- サークル : Achromic
- 印刷 : トム出版 様
- 原作 : アイドルマスター
シンデレラガールズ

Achromic

アクロミック